

独立行政法人地域医療機能推進機構 群馬中央病院
令和6年度第1回地域協議会議事録

【日 時】令和6年7月12日(金) 13:30 ～ 14:15

【場 所】群馬中央病院 別館2階 中会議室

【出 席】13名

中島 高志(群馬県健康福祉部長)	代理:高橋 智之(健康福祉課医療・福祉連携推進室長)
大野 誠司(前橋市副市長)	代理:宮坂 恵理子(前橋市健康部長)
手島 一樹(前橋市消防局長)	代理:琴寄 敏行(前橋市消防局救急課救急課長)
川島 崇(群馬県医師会副会長)	
須田 浩充(前橋市医師会会長)	
細内 康男(社会福祉法人恩賜財団済生会支部群馬県済生会前橋病院長)	
清水 奈保(群馬県看護協会専務理事)	
田代 俊哉(紅雲町一丁目自治会長)	
内藤 浩(群馬中央病院院長)	
伊藤 理廣(群馬中央病院副院長)	
青野 努(群馬中央病院事務部長)	
茂木 香里(群馬中央病院看護部長)	
蟻川 勝(群馬中央病院薬剤部長)	

【欠 席】2名

上吉原 光宏(前橋市医師会病診連携担当理事)
寺内 正紀(群馬中央病院副院長)

【議事概要】

1. 院長挨拶

2. 委員紹介

3. 活動報告

(内藤議長)

- 1950年に社会保険群馬中央総合病院として開設し、2014年に現在のJCHOとなった。
- JCHOは全国で57病院、主な使命は、地域医療、地域包括ケアの要になること。
- 病院は333床、地域包括ケア病棟は60床、老健は定員80人。
- 前橋市からの委託で地域包括支援センターを運営している。
- 常勤職員が593人、医師が71人、看護師が288人、他委託等のスタッフが勤務をしている。
- 地域医療連携センターでは、クリニックと連携し地域包括ケアの推進をしている。
- 入退院センターや社会福祉相談室で様々な患者支援、社会支援も行っている。
- 病院だけでやれる時代は終わり、例えば糖尿病患者を病院の専門医だけでは対応できないため、専

門的なことは病院で決めて、その後の対応はクリニックにお願いするなど、たくさんの患者を少ない専門医で診ていく取り組みをしている。

- 年6回の地域カンファレンスや年2回の市民健康医学講座などでの情報発信、年1回の登録医大会で、クリニックの先生方等を招いて情報交換をしている。
- 認定看護師を無料で講師派遣しており、栄養士や保健師、場合により医師も派遣可能。
- 2025年1月に医療マネジメント学会群馬県支部集会を実施予定。
- がん患者支援イベント“リレーフォーライフジャパン”には、多くの職員が参加している。
- 経常収支は、コロナの補助金等もあつて3億から4億の黒字で推移し、コロナの補助金は、独法のため国庫返納となった。
- 紹介患者数は、市内4病院(群大、日赤、済生会、群中)の中で2番目に多い。
- 救急車の受け入れ件数は、年々増加し、2,700台まで増えた。救急車の出動回数が増えている影響も大きいと考える。
- コロナの受け入れは、日赤、群大に続いて多く受け入れた。小児のコロナ受け入れも、小児医療センターに次いで2番目に多く受け入れた。
- 小児科では、10月にNICUが開設された。
- 地域シェアでは、消化器は済生会が1番多く、呼吸器は当院が約11%のシェア。婦人科疾患は、群大、日赤、当院で各3分の1のシェア。小児は、小児医療センターと当院で住み分けができています。
- 健康管理センターの利用者数は約5万人で、予防医学にも力を入れている。
- 病院機能評価を昨年の12月に再認定を受けた。
- 能登半島地震での被災地活動として、DMATは車で行ける範囲までの後方支援的な役割を果たし、看護師派遣では穴水総合病院などのインフラ等が行き届かなかった場所まで赴き、大変苦勞した。
- 納涼会を、8月24日土曜日の16時半から、病院の敷地内で実施する。

4. 意見交換

(高橋委員)

地域包括ケアは、政策でさらに進めていく必要があると感じているし、併せて、医療DXについては県としても推進しているため、ご協力をお願いしたい。

(内藤議長)

地域包括ケアは私たちの使命であり、また、医療DXの推進は厚労省からも言われているため、今後とも情報共有をお願いしたい。

(宮坂委員)

市長が変わり、子ども最優先の中で、前橋市は医療機関が充実しており、子どもにすぐに対応できることが強みだと思っている。

(内藤議長)

当院は小児科、産婦人科に伝統的に力を入れてきた病院のため、今後とも取り組んでいきたい。

(琴寄委員)

今年度は2万1千件を超えるような搬送状況。7月は熱中症で搬送も増えている。

(内藤議長)

救急車の出動が増えている問題については私たちも認識しており、できる限りの協力をする。

(川島委員)

コロナ感染対策病院の連携もがんばっていただき、また、県内でも有数の医療が豊富な地区のため、災害時の感染症対策等、様々な面でのご協力をお願いしたい。

(須田委員)

群大の隣接地に小児医療センターができることで、小児、周産期医療は充実すると考える。群馬中央病院ともうまく連携したい。

(内藤議長)

前橋市の小児医療が充実するようにやっていきたい。

(細内委員)

市内4病院の住み分けが相当進んでいる、と感じている。10月のNICU立ち上げは重要だと思う。我々の病院は小児、産婦人科がないため、お互い協力しながらやっていきたい。

(清水委員)

小児医療センターは、産科はあるものの、重症の妊婦は診ることができなかった。群大の隣接地に移ることで、解決できればと思う。周産期を診るところが少なくなり、渋川地区は大変な状況。前橋市と協力し、集約されていければ良いと思う。

災害支援ナースを県の要請で派遣できるよう登録し、講習もはじまった。ぜひとも出席していただけるとありがたい。

(田代委員)

高齢化で、健康診断等、自分一人で行く窓口はどこに行けばよいか、との相談を受け、地域連携でまとめた健康診断というのを考えている。今後、機会があればよろしくお願いしたい。

(内藤議長)

町内会とも具体的な話をする機会を作らせていただければありがたい。

(蟻川委員)

紹介患者からの薬の問い合わせ等対応もさせていただき、今後は医療DXで電子処方箋のほうも対応したいと思う。

(茂木委員)

認定看護師の派遣については、登録医大会で一緒に先生方からの要望もあり、当院で派遣できる看

護師は派遣しようと思っている。最近は感染、摂食嚥下、認知症のニーズが多かったが、他にも創傷関連の特定行為の看護師もいるため、よろしく願いしたい。

(青野委員)

地域に根差した取り組みというものを、事務方としてしっかり支え、協議会等で情報共有しながら、お互い助け合いながら進めたい。

(伊藤委員)

当院で、子供が欲しいと思った時から、妊娠、出産、そしてその子供を育てていく過程で、ワンストップで全て対応可能である、ということを目指し、地域の皆様に役立つような産婦人科、小児医療を提供できたらと思う。それには、産婦人科、小児科だけでなく、すべての機能を利用してあらゆる疾患に対応していけるようにしたい。

5. その他

特になし

(内藤議長)

前橋市で生まれた人が最後まで住める、そういう環境をつくる中で、病院がどんなことができるか常に考えている。皆様方から、こんな機能をつくれれば良い等のご意見、今後ともお願いしたい。

以上